

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	スーパー（店長）	・まだまだ値上がりは続き、売上への追い風が続く。さらに、いわゆる中国問題から国産品の売上が増加し、これも追い風となる。
		通信会社（管理担当）	・今後の各種サービス料金値下げ、及び新端末の販売開始等の影響で、2～3か月先はやや良くなる。
		ゴルフ場（従業員）	・週末が予約で埋まってきている。
	変わらない	百貨店（営業担当）	・松山地区は車社会であり、ガソリンの高騰が今後響いてくる。人が動かなくなって、景気は今のよう落ち込んだ状態が続く。
		百貨店（売場担当）	・景気上昇を予測させる材料がほとんどない。物産展催事などの食品を中心とする催事以外は活気に乏しい。
		スーパー（企画担当）	・店頭価格は徐々に上がっているが、アイテムを絞った値下げなどにより、消費者への影響は小さい。ただし、売値を抑えている小売業者が利益面で工夫を行わないと、半年・1年後の景気に影響を与える。
		家電量販店（営業担当）	・冷蔵庫、洗濯機の必需品を、壊れてから買うという形が目立ってきている。
		乗用車販売店（従業員）	・良くなる要素が無い。自動車業界は、ガソリン価格と直結した販売量を示すので、高止まりが続くと厳しい。
		都市型ホテル（経営者）	・3月から始まる「花・人・土佐であい博」に期待しているが、今のところ、あまり際立った反応もない。
		タクシー運転手	・給料が上昇していないという声をよく聞く。
		設計事務所（所長）	・分譲マンションの売れ残りがかなり出ている様子で、来年度の供給も700～1000戸近くの計画があることから、同様の状況が続く。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・原油高による商品の値上がりが、じわじわ効いてきている。
		商店街（代表者）	・商店街の12月の空き店舗率、通行量は過去最悪で、来街者数、売上共に減っている。春物商品についても、非常に厳しいスタートになっており、今後上昇する要素がない。
		商店街（代表者）	・中心市街地の核の一つを欠いたなかで、集客にやや苦しんでいる。現状でも、個店である程度手は打てると思うが、全体の集客力も上げないと厳しい。
		百貨店（営業担当）	・来客数の減少が続いており、ファッション商品群に回復の兆しが見えない。ブランド商品にも陰りが見られる。
スーパー（店長）		・ラーメン類、ビールなど値上げラッシュが続いているため、更に買い控えが起きる。	
スーパー（財務担当）		・中国産冷凍ギョウザに端を発し、危険な商品も更に増加しており、国産志向が強まっている。今後、需給の関係から物価は上昇する。	
コンビニ（エリア担当）		・石油やそれに類するものの価格、その他の商品の価格上昇がこのまま継続すると、若干買い控えも発生する。	
衣料品専門店（経営者）		・3月はそれなりに維持できるが、4月、5月になると公務員関係の給料が低下すると聞いており、消費マインドが少々変わってくる。	
衣料品専門店（経営者）		・食料品始めほとんど値上がりするので、買い控えが発生する。	
衣料品専門店（経営者）		・既存店での前年実績割れがずっと続いており、今後生活必需品の値上げも控えていることから、更に悲観的にならざるを得ない。	
衣料品専門店（経営者）		・原油高の影響による物価上昇によって買い控えが起きている。	
家電量販店（店長）		・今年に入り、来客数が若干減少している。	
住関連専門店（経営者）	・販売量が伸びない。		
悪くなる	一般レストラン（経営者）	・原料高騰に加え、中国産を避けることにより単価が上昇（高価格の国産使用）する。また、企業の3～4月の昇給もあまり良くなく、買い控えが更に進行する。	
	観光名所（経営者）	・予約が少ない。	
企業 動向	良くなる		
	やや良くなる	-	-

関連	変わらない	木材木製品製造業（経営者）	・着工数はかなり増加しており、戸建てや集合住宅関連は順調に推移する。マンション関連は、10～11月くらいまでは非常に低調に推移する。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・景気の状態は今のままで変わらない。新商品が少しずつ販売できるようになってきたので、ある程度カバーできている。
		輸送業（役員）	・当分の間、原油高騰による運賃転嫁がスムーズに行われず、物流動向も低調に推移する。
やや悪くなる		一般機械器具製造業（経理担当）	・部材は今後まだ高騰し、受注や収益は先細りする。他社とのブランド差を製品のどこに求めてゆくかなど、各社の知恵比べが続く。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・大型クレーンの稼働率は総じて堅調だが、燃料費高騰等の不安材料を抱え、先行きに対するマインドが低下してきている。また高所作業車及び小型クレーンは、需要低迷が今後も長引く。
		電気機械器具製造業（経営者）	・引き合いがほとんどゼロに近く、かなり厳しい。
		通信業（営業担当）	・動物園の園長から、「入場者が、3年前から毎年数千人ずつ増加していたが、今年度は昨年度より1万数千人少なく厳しい状況」と聞いた。また、量販店のマネージャーからは、「個人消費の回復が実感出来ない」など暗い話を聞いた。
		通信業（支店長）	・競争が厳しく、値下げ要因は多くあり、次の成長戦略が描き切れていない。
		広告代理店（経営者）	・一部の県外大手流通会社を除き、多くの地元資本得意先は広告費削減の話が多く、更に実質的に経営権を他社に譲渡する等の厳しい局面を迎えている会社があり、今後も不安定な見込みである。
		公認会計士	・取引先の社長との話では、収入や資金繰り等に不安を持っている人が多い。特に、倒産が増えているようであり、それに伴う貸し倒れ等を非常に警戒している。このような状況では、3か月先は、景気は今よりも悪いのではないかと危惧している。
悪くなる		建設業（経営者）	・新年度から、鉄筋を始めいろいろな建設資材の値上がりが続いている。
		建設業（総務担当）	・着工の遅れ、資材の高騰、厳しい値下げ競争が続き、先の見通しが全く立たない。
		輸送業（支店長）	・原油高の影響で燃料等の高騰はまだ続きそうであり、一部料金の転嫁はできたが、焼け石に水で経営環境は更に厳しくなる。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・四国内の優秀な人材が中央へ流出する傾向にある。5月から、こうした現状に対し求人系の新媒体などを投入するため、改善が図られる。
	変わらない やや悪くなる	職業安定所（職員）	・新規求人申込件数は、前年同月比で微増している。
		職業安定所（職員）	・企業からは、原油や原材料の値上げによって、経営が非常に厳しくなっているという声を多く聞く。今後も、その傾向はあまり変わらず、景気はやや悪くなる。
		職業安定所（職員）	・新規求職者が減り続けている。正規型雇用がないことから、情報誌などによる非正規型雇用にとりあえず就職する者が増えている。
		民間職業紹介機関（所長）	・建築・土木系の登録者が増えて、業界全体に底冷え感があり、会社の将来への不安のため、退職を考えている人が増えてきている。
悪くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新規事業の情報も入って来ず、とにかく消費マインドが冷え込んでいる。	